

ヒラメ受精卵のポビドンヨード剤による消毒効果の検討

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2025-04-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 渡辺, 研一, 太田, 健吾, 高橋, 誠
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014596

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



ヒラメ受精卵のポビドンヨード剤による消毒効果の検討
渡辺研一・太田健吾・高橋 誠

ヒラメ受精卵のポビドンヨード剤による適正な消毒条件を調査した。有効ヨウ素濃度 0 ~ 100 mg/ℓ の海水に 5 ~ 20 分間浸漬したところ、5 分では対照区のふ化率と同等であった。生菌数を海水培地を用いて測定したところ、25 ~ 100 mg/ℓ の濃度では 5 分以上浸漬すると、ほとんどの場合で消毒率が 90% を超えるか、検出限界未満となった。8 発生段階の受精卵を有効ヨウ素濃度 50 mg/ℓ の海水に 5 分間浸漬したところ、原口閉鎖期でふ化率が低下した。以上の結果から、ヒラメ受精卵の安全で効果的な消毒条件は、原口閉鎖期以外の卵を用いて有効ヨウ素濃度 25 ~ 100 mg/ℓ で 5 分間の浸漬であると考えられた。

栽培技研, 35(2), 1-4, 2008